

彙報

真宗学会

◇例会(研究発表)

十月二十九日 於 二〇四教室

「大谷本願留守職考」 栗原行信教授

出席者 松原学会長、稲葉、藤原教授、

寺川、白井助教授、本多、松井、小野

助手、杉浦嘱託ほか学生三十名。

◇真宗学会大会

十一月二十一日 於 図書館講堂

「体失往生と不体失往生」

藤原幸章教授

「親鸞の発想法について」

松野 紙孝氏

出席者 松原学会長、広瀬、藤原、栗原

教授、寺川、白井助教授、松井、小野

助手、杉浦、本多恵研究室ほか学生

七十名。

◇修士論文中間発表会

十一月二十五日 於 二〇九教室

「二種深信」 井上恵樹

「無限の信」 小林光紀

「願生浄土」

「願生心の構造」

出席者 松原学会長、広瀬教授、本多弘

助手、本多恵特研究生ほか学生四十名。

◇卒業論文中間発表会

十二月九日 於 四〇五教室

「人間成就」

「願生道について」

「親鸞一人がため」の信知

「真宗における俗論論」

「彼岸の意義」

「信心と疑惑の相関性」

出席者 松原学会長、広瀬、藤原教授、

寺川助教授、本多弘助手、杉浦、本多

恵研究室ほか学生七十名。

仏教学会

◇「仏教学セミナー」第十号発刊

十月三十日

目次

真空妙有

— 仏教学と真宗学との接点 —

ブラマーナ・ヴェールティカ

舟橋 一哉

為自比量章の順位

僧徽の研究(上)

佐伯定胤老師

— 法隆寺の故和上を偲んで —

インド仏教への道しるべ(四)

— 唯識仏教 —

◇仏教学会例会

十一月七日

一、講演「過去仏思想について」

高野山大学教授 宮坂有勝博士

一、懇談会(宮坂博士を囲んで)

出席 佐々木現順会長ほか教職員学生七

十余名。

東洋史学会
東洋仏教史学会
中国文学会

◇東洋史補導懇談会

十一月五日

出席者 野上教授、滋野井助教授、藤島

助手、他四回生十四名。

◇東洋史・東洋仏教史空論中間発表会

十一月二十二日

出席者 野上教授、稲葉教授、滋野井助

教授、滋賀講師、安藤、藤島、河内助手、他専攻生四十余名。

◇中国文学卒論中間発表会

十二月十一日

毎週不曜日行なっていた発表会をこの日に終了。

出席者 平野助教授、河内助手、他専攻生十九名。

国史学会

◇山科方面史蹟踏査

十月二十八日(水)

見学地 音羽光照寺、随心院、勧修寺、醍醐三宝院、同霊宝館、一言寺観音、日野法界寺。

引率 柏原教授、佐々木助手、中川囁託。参加学生二十一名。

◇秋季大会

十二月七日(日)午前十時より

於 本学一番教室

(研究発表)

一、加能越に於ける異安心について

菊池 武

一、神護寺の法華会について

向 堯子

一、越後秋山郷の宗教生活について

豊島 修

一、融通念仏縁起について 浜田 全真

(公開講演)

一、近世仏教史研究の一視点

——鈴木正三と浅原才市から

本学教授 柏原 祐泉氏

一、日本の鉱山史研究について

龍大教授、文博 小葉田 淳氏

出席 五采教授、堅田助教授、佐々木

助手、中川囁託、他学生多数。

来賓 山本栄吾博士、花園大学橘恭堂

講師、早崎得雄氏ほか。

◇洛東方面史蹟踏査

十二月十三日(土)

見学地 西福寺、珍皇寺、六波羅密寺、法福寺、方広寺、即成院ほか。

引率 五采教授、柏原教授、佐々木助

手、中川囁託、参加学生二十四名。

仏教史学会

十月一・二日

見学地 山辺の道から室生寺方面(円照寺、石上神宮、長岳寺、大神神社、室生寺、龍穴神社、大野寺、長谷寺)、室生寺泊。

引率 藤島教授、名畑講師、大桑助手、佐々木特研生、参加学生二十九名。

◇卒業論文中間発表

十二月十三日午前十時半〜午後五時

発表者 二十七名。 於 四〇一教室

◇史蹟踏査

十二月十四日

見学地 堅田、坂本方面(日吉大社、聖衆来迎寺、西教寺、本福寺、満月寺)

引率 藤島教授、名畑講師、大桑助手、佐々木特研生、参加学生二十三名。

◇仏教史学会大会

十二月第二土曜日に予定されていた仏教史学会大会は、学内諸問題の激化と学生からの学会のあり方への批判によつて、本年度は中止された。

◇三回生研究旅行

大谷大学哲学会

◇哲学論集第十六号（一九六五年度）

十二月十日発行

内容目次

ヤスパースの実存的交わりについて

寺崎 峻輔

地域集団の構造分析

河村 雷雨

人間変革の論理

大竹 鑑

「西東詩集」における愛と宗教性

友田 孝興

シェリングにおける同一性について

堀尾 孟

当会々員以外の方で購読御希望の場合は
哲学研究室にお問い合わせ下さい。

宗 教 学 会

◇例会

十月二十七日（月） 於 三〇七教室

従来の公開講演会及び論文（卒論・修論）中間発表を、例年通り行いかどうかを検討した。論議の末、学会そのものの意義、また大学において宗教学という学問を通して研究と教育に一人一人がどの

ように関わるのか、を再認識するという結論になった。

以上の主旨にそって毎週月曜日、論文発表者を中心に討論集会を開くことに決定した。

哲学倫理学会

◇体制の変革を迫る状況下において、哲学倫理学会の通例の例会は行われなかつたが、ゼミナル中心の討論が毎週続行された。

短期仏教学会

◇研究例会 第四回

十月二十一日（火）

於 短期仏教科研究室

「教団とは何か」 佐々木教悟教授

出席者 小川助手、ほか学生八名。

◇研究例会 第五回

十一月十九日 於 五番教室

「現代における教団の歴史的役割」

出席者 小川助手、ほか学生十二名。
栗原 行信教授

国 文 学 会

◇〈短期大学部〉

◇時代祭見学

十月二十二日（水）

一回生百余名が参加。

◇秋期史蹟踏査

十月三十一日（金） 大原方面。

仲野助教授の指導のもと学生四十名が参加。

十一月十八・十九日（火・水）

小豆島。

渡辺助教授の指導のもと学生十五名が参加。

十一月二十一日（金）

鞍馬・貴船。

荒木教授、今井助手はじめ学生四十名が参加。

十一月二十七・二十八日（木・金）

城崎。

片岡講師の指導のもと学生八名が参加。